

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人: 社会福祉法人えのき会

理事長: 古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail: info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

＝京都ヒューマン賞受賞＝

(公財) 京都オムロン地域協力基金

には、2団体、1個人が選出され、その中で、えのき会が表彰されることになりました。

去る6月4日に、リーガロイヤルホテル京都で授賞式が行われ、京都府知事、京都市長出席のもと、立石文雄オムロン財団理事長より表彰を受けました。

えのき会が無認可団体の頃より一緒に活動をしてきた親たちも、授賞式に招待



公益財団法人京都オムロン地域協力基金(理事長・立石文雄オムロン会長)様は、これまで長年にわたり、京都府内で、地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、環境問題などを取り組んできた個人や団体を対象に、1996年から表彰をされています。

2019年度の「京都ヒューマン賞」

され、一緒に受賞を喜び合いました。



表賞状とトロフィー
顕彰金として百万円を頂きました。

30年に亘る長い年月の活動が評価された事への喜びと共に、これまでの活動の一つの区切りとなる、大きなイベントとなりました。

ました。

「公益財団法人オムロン地域協力基金」立石文雄理事長様はじめ、役員の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、利用者のそばでいつも支援を続けてくれている職員たちにも、あらためて感謝を伝えたいと思います。

これからも、障害のある人たちに、質の高い支援と、日々、介護が続くご家族にも、ほんの一時でも穏やかな日々が過ごせるような、そんな支援ができればと思っています。

表彰状

京都ヒューマン賞

社会福祉法人 えのき会 様

貴団体は、重い障害のある人たちが地域でその人らしく当たり前に生きていける社会すべての命が大切にされる社会をめざした活動が、力を合わせ挑戦してこられました。これからは、障害のある人たちが介護する家族に寄り添い、必要とされるサービスや環境を提供し続けられることを新念しここに京都ヒューマン賞を贈呈します。

2019年6月5日

公益財団法人
京都オムロン地域協力基金
理事長 立石文雄

誰もが働きやすい
職場を目指して

働き方改革という言葉が新聞やテレビなどでよく見聞きするようになりました。

えのき会でも職員のライフワークに合わせた働き方ができるように努力しており、その中に、短時間正職、短時間契約職員の制度があります。

「保育園のお迎えがあるから少し早めに帰りたい」

「父親も育児がしたい」

「家族の看護、介護がある」

自らのライフワークに合わせ短時間勤務を希望して働くある男性職員は、伏見区内の数ある法人事業所で、男性の育休取得者第1号となりました。今は、短時間正職の制度を使い、子育て参戦中です。

保育園からの緊急電話で早退する時も、お迎えの時間に合わせ勤務を切り上げ、保育園に向かう姿も、えのき会では当たり前の光景になっています。

女性職員、男性職員であっても、また、ご家族にとっても、「えのき会で働いている事を、喜んでもらえる」職場を目指していきたいと思っています。

(事務局・西山)

II 役員の変更が決定

去る6月14日、2019年度定時評議員会が開催され、理事6名、監事2名の選任がありました。任期は21年6月。

また、18日の理事会において理事長、常務理事、執行役員が選ばれました。先の評議員会において理事の全てが再任されたこと、新規事業の立ち上げもあることから現状の体制を維持する旨の提案があり、理事長、常務理事、執行役員も再任となりました。

理事長・古川末子
常務理事・村上高久
業務執行理事・高橋陽子
業務執行理事・渡辺登志子
理事・西村清忠
理事・橋本加津代
監事・荻原卓司
監事・磯貝英雄
苦情解決第三者委員

・立岩真也
・土田文子

これから、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。



社会福祉事業 貸借対照表

平成31年 3月31日現在

(単位: 千円)

資 産 の 部	
勘定科目	当年度末
流動資産	110,614
現金預金	50,475
事業未収金	52,411
未収金	7,601
前払費用	127
仮払金	0
固定資産	666,433
基本財産	417,059
土地	248,402
建物	167,957
定期預金	700
その他の固定資産	249,374
構築物	3,953
機械及び装置	0
車両運搬具	5,217
器具及び備品	3,874
ソフトウェア	452
退職給付引当資産	8,042
長期積立資産	226,400
出資金	58
差入保証金	1,378
資産の部合計	777,047
負 債 の 部	
流動負債	45,099
未払金	21,749
1年以内返済予定設備資金借入金	3,024
預り金	5,315
前受金	10
賞与引当金	15,000
固定負債	38,486
設備資金借入金	24,444
退職給付引当金	8,042
長期預り金	6,000
負債の部合計	83,585
純 資 産 の 部	
基本金	190,408
基本金	190,408
国庫補助金等特別積立金	84,442
国庫補助金等特別積立金	84,442
次期繰越活動増減差額	418,612
(うち当期活動増減差額)	26,675
純資産の部合計	693,462
負債及び純資産の部合計	777,047

社会福祉事業 事業活動計算書

(自) 平成30年 4月 1日 (至) 平成31年 3月31日

(単位: 千円)

勘定科目	当年度決算(A)
サービス活動増減の部	
収益	
障害福祉サービス等事業収益	342,466
経常経費寄附金収益	1,254
サービス活動収益計(1)	343,719
費用	
人件費	266,070
事業費	16,265
事務費	25,279
減価償却費	17,234
国庫補助金等特別積立金取崩額	-7,058
サービス活動費用計(2)	317,790
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	25,929
サービス活動外増減の部	
収益	
受取利息配当金収益	134
その他のサービス活動外収益	757
サービス活動外収益計(4)	891
費用	
支払利息	146
その他のサービス活動外費用	0
サービス活動外費用計(5)	146
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	746
経常増減差額(7)=(3)+(6)	26,675
特別増減の部	
収益	
施設整備等補助金収益	0
固定資産受贈額	0
特別収益計(8)	0
費用	
国庫補助金等特別積立金積立額	0
特別費用計(9)	0
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	26,675
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額(12)	391,937
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	418,612
基本金取崩額(14)	0
その他の積立金取崩額(15)	0
その他の積立金積立額(16)	0
次期繰越活動増減差額	
(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	418,612

【榎の家副所長・清水直子】

初めて子供を授かることができたのは、妊娠前から榎のみんなにサポートをしていただけたからだとか心から感謝しています。

復職後は子供のことを気遣ってくれる先輩からの言葉かけや先輩ママ、パパからの励ましの言葉に助けられ、心強く感じています。

育児休暇中は、社会から切り離されたような、孤立感がありました。職場面談日と同じ育児休暇中の職員と話せたりできるとは良かったです。また、利用者の誕生日会にゲストとして呼んでいただき嬉しかったことを覚えています。

職場復帰が近づいてくると、働き方や子供の状態、様々な不安が膨らんでいきます。それは個々で状態や環境は違うので、個別面談で話を聞く時間をとってもらえたらと思います。また上司が思い描いている考えなどもあれば説明してほしいです。

1年半ほどのお休みでしたが、利用者、職員ともに大きく様変わりしていました。

そういう現場なのだというのに、気が引き締まる思いと、職員一人一人も大切な存在であり、誰もが働きやすい職場にしていけるために職員自らも声をあげていく必要を感じています。

2人目を授かることができたときには、「ちょっと授乳してきまあす」なんて、働きながらできたいいなあ・・・。



育休から職場復帰して

復帰した職員からメッセージ



【栄養士・山本朋子】

えのき会に入って、結婚し3人の子供を授かり、産前産後休暇、育児休暇をそれぞれ経て、復職させていただいております。

1人目の時は、全てが初めてのことで分からないことばかりでしたが、社労士さんからの説明もあり、仕事の面、お金の面等で安堵したことを今でもよく覚えています。

育児休暇中に子供を連れての面談も、とてもありがたかったなと思います。同じ時に育休中の職員や子供さんとも会え、その時の月齢ならではの話も聞けたり、相談出来たりしたので、復職するにあたっては心強かったです。一番上の子は、その時に一緒に来ていた子と今でも仲良しで同じサッカーチームで頑張っています。

また、育休中に職場の面談に行くことで状況が把握しやすく、現場の職員と直接話せたりもできることでスムーズに復帰できたと思います。

復職してから子供急な発熱、体調不良でお休みさせていただくことが多々ありますが、周りの職員にフォローしてもらいながら仕事が再開できています。

現在、3ヶ月が経とうとしています。毎日の育児で手一杯になってしまっていて、家の片付けは中々追いつかず、片付かない部屋を見るのがブチストレスとなっていました。一ヶ月に一度平日にお休みが採れるような制度があれば

ば、仕事、家事、育児の3つの両立がもつてできるのではないかと思います(子供が熱発等で有給はかなり使ってしまったのですが...)。今までのいろんな人のお力を借りながら仕事復帰が来ているので、次は私が力を貸せるようがんばります。



【特定相談支援事業えのき・中村早織】

初めての出産、育児ということもあり、1年9ヶ月という長い期間お休みをいただきました。ゆっくり娘と向き合える時間をいただけたことに感謝しています。

えのき会には、私が入職した頃から産休で休みに入る先輩が何名もいました。男性職員にも結婚して子どもが生まれたという職員が増えていたので、えのき会で働きながら結婚して出産して、というイメージが私の中にありました。私が育休中に出会ったお母さんは「職場に育休をとったことのある人が一人もいない。

復帰した時に育休前と同じ内容の仕事はできないけど、どんな内容の仕事をしていくのかも分からない。」と不安そうに話していました。妊娠中の働き方や職員との関係、育休中の職場との繋がり方、復帰後の働き方など具体的にイメージできていたのは、えのき会という恵まれた環境にいたからだと思っています。

また、同じタイミングで育休の職員も多く、育休中の面談や職場復帰してからお互いに「どう？」と相談できる環境だったのもよかったです。もし復帰のタイミングが一人なら、復帰後にも面談でゆっくり話せる時間があればと思います。

今後、皆様にはご迷惑をおかけしますが、後輩の出産、育児の時にはサポートができるように成長したいと思っています。



【事務職・飯田 絢子】

私が、えのき会で妊娠・出産、復帰までを経験し、一番感じたことは一緒に働く周りの方々の心遣いでした。前職では、妊娠はもちろんです、結婚さえも部署内で私が初めてでした。その為、繁盛期という事もありましたが、業務の毎日を過ごした結果的に仕事が続けられなくなりました。

そういった経験を、えのき会に入職しましたが、2人目の妊娠から産休に入るまでは本当に周りの方々に体を気遣って頂き、その心遣いがとても嬉しかったです。育休中も何度か面談の機会を作って頂きました。具体的な復帰に向けての個別面談が良かったのですが。

現在は、子供が二人になり発熱などでお休みをいただく日も増えましたが、看護休暇という制度があるので助かっています。以前までは「あと有給休暇が何日あるか？」を気にしながら子供の熱に怯えていましたが、今は少し気持ちにも余裕ができました。

周りの職員の方にサポートして頂いてこそ、お休みを頂き子供の看護ができていけると実感しています。子育てが落ち着いた時には、今度は私が周りの方のサポートをできるような職員へ成長したいと思っています。



敬称略・順不同

ご寄付のお礼とご報告

2018年5月～2019年6月末

角間みよ子
石場 耕作
若桐の会
スタジオスミ「毎年、カラオケ大会時のカンパをご寄付頂きありがとうございます。」
勝見 博光「いつもありがとうございます。」
とう「ご報告です。」
(有)大谷商事
正木 敦士「長年ご協力頂きありがとうございます。」
中路 慶子
田中 朗
小仲 幸子
松川 剛士
三矢 佑悟
中島 勉「少額ですが送らせて頂きます。」
谷内 文子
秋山 泰人
松岡 匡宏
岡 千栄子
小山 敏枝
北川工務店「困りごとがあればすぐ電話しております助かっています。」
西村 響之助
猪鼻昌司・さち子「桜の花が毎年美しく咲いています。」
山村 幸子「いつもお世話になってます。」
浅田 裕樹

北野井 一恵「いつも有難うございます。」
清水 孝男
桑田 明仁
武蔵野 眞知「2泊3日の旅行良かったですね。」
いつも通信のメッセージありがとうございます。
秋山 眞一郎
原 哲夫「先生お元気にされていますか？」
草場 周啓
内藤 善三「長年に亘りご支援ありがとうございます。」
伊東 由利子「ニュースレターを読んで、確かな組織の力やあたたかさを感じます。充実、発展を祈りつつ応援致します。」
竹村 壽子「新しい拠点も増え、ますます充実した事業を、地域に展開されますことを！」
西村 清忠
谷口 登茂子
森 昌代「いつもお世話になっております。」
松田 晶代
津々木 幸子
大西 佳奈子
中沖 美希
大西 雅也
飯田 武志
植田 智恵

渡辺 淳
森田 幸子
藤谷 一夫
竹本 勝一
平井 廣子「一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。」
梅原 久美子「いつもご支援ありがとうございます。」
宮下 晴子
高橋 陽子
小中 謙吾
下山 米次郎
谷川 政弘「ご寄付ありがとうございます。」
宮坂 浩
河本 弘子
土田恵理子「いつもありがとうございます。」
奥田 希亮子「何かにつけてお心配りを頂きありがとうございます。」
進藤 育子
樋口 和子

伏見稲荷大社
お米60kg
橋本加津代
りんご
京都鳥羽ライオンズクラブ
玉ねぎ

紙面上お名前をおひとり
1度しか掲載しておりませんが、
期間中、2回、3回と、ご寄付頂
いている方もいらっしゃいます。
この紙面にて、お礼申し上げます。

山ノ下町内会
匿名希望
古川 末子
法人で建設等大きな事業計画があるときも、ないときも関わりなく、えのき会に、支援頂きありがとうございます。
無認可可から今日までの長い期間を歩んで来られましたのも、皆さま方の温かい応援があったからこそです。
新しい土地利用につきましても、地域のニーズ、優先課題など鑑みながら進めていきたいと思っております。
これからも障害のある人たち、ご家族に寄り添いながら、事業運営して参りますので、どうか、よろしくお願い致します。

編集後記

「親亡き後」という言葉、障害のある子どもと暮らす親の将来的な不安を言つものとはかり思っていました。先日ある新聞に、健康者で引きこもり状態にある人の「親亡き後」の問題について記事が載っていました。
自身の知識不足なのか、障害者以外に用いられるのを初めて見た気がします。生き辛さを持つた人たちの間では、以前から使われていたのかもしれない。
親しか頼る術がないことも、年々親も親業を卒業できない親の現実も、同じく辛いものがあります。どちらにしても、親(家族)にパラサイトせずには生きていけない状況があるということでしょう。
直近に行われた参議院選挙も、低投票率の中、政権与党の勝利でした。障害者問題だけでなく、働く人の4割が非正規雇用といわれるなか、貧困率の上昇は非正規雇用が増えたためとされています。
政治が、一番必要とされる人から一番遠くにある現状を、どう読み解けばいいのでしょうか？
必要な情報を必要な人に届けないこの国のメディアが、この国を壊していく、そんな気がします。

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子
(法人本部)
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下4-4-8